



題字は、明治 39 年 10 月 1 日陸軍大臣寺内正毅から外務大臣林董宛に提出した文書（外交史料館所蔵）より抜粋。
 紋様は、尾形光琳：『八橋蒔絵硯箱』東京国立博物館所蔵より。

目次

- 東京湾海堡ファンクラブ第 7 回見学会のご案内
- 第 4 回総会報告
- 第 4 回シンポジウム報告
- 東京湾海堡ファンクラブ第 6 回見学会報告
- 東京湾海堡ファンクラブ見学会
 観音崎砲台群を訪ねて 仲野正美
- 「観音崎の自然&あれこれ 観音崎砲台跡」
 鈴木 弘
- ニュース
- 会則/入会案内

**東京湾海堡ファンクラブ
 第 7 回見学会のご案内**

下記のとおり、第二海堡見学会を開催いたします。詳しくは同封している案内及び申込用紙をご覧ください。
 皆さま、ふるってご参加ください。

記

- 開催日：2005 年 7 月 23 日（土） 午前中
- 集合場所：A. 富津公民館
 B. 東京湾口航路事務所（横須賀）
- 定員：A, B 各コース 18 名（合計 36 名）
- 参加費：1,000 円（傷害保険、資料代）
- 申込方法：下記事項を記入の上、電話・FAX・E-Mail のいずれかの方法で事務局までお申し込み下さい。

- ① 氏名（ふりがな）
- ② 年齢
- ③ 連絡先（電話番号、当日の連絡先）

※同行者がいる場合は同行者の氏名（ふりがな）、年齢も記入して下さい。同行者は 2 名までです。

- 申込締切：2005 年 7 月 11（月）
- 注意事項：帽子・歩きやすい服装でご参加下さい。
 熱中症予防のため、飲み物は各自ご用意ください。

★希望者多数の場合は、先着順とさせていただきます。

第 4 回総会報告

第 4 回総会が 2005 年 6 月 11 日、横須賀市中央図書館で開催されました。会員 132 名のうち、総会出席者は 76 名（委任状提出者含む）で、定足数の過半数を超えましたので、総会は成立し、下記議案が決議されました。

記

第 1 号議案 2004 年度事業報告

年	月	日	会報	行事	備考
2004	5	5	会報第5号の発行		
	6	5		◇現地見学会4〔横須賀〕 「第二海堡・第三海堡」 「追浜ケーソンヤード」	
	6	19		●通常総会 ◎シンポジウム3〔富津公民館〕 「第一海堡の現況」 「第一海堡の護岸状況」 「管理者の意向」 「海外事例」 「第一海堡活用に対する自由討論」	2003年度会計報告 2004年度会費徴収
	6	27		西田信吉幹事：ヨコスカお魚天国でのパネル展示	
	12		会報第6号の発行	「東京湾海堡シンポジウム」開催のお知らせを送付。	
2005	2		会報第7号の発行	◇ビデオ上映会〔富津〕 「日本の激流の中で」上映	
	3	1		西田好孝副会長：「海堡と西田明則」講演	横須賀市立中央図書館
	3	19	会報第8号の発行	◇現地見学会5〔富津〕 富津埋立資料館→大乘寺→富津岬	

第2号議案 2004年度決算報告

項目	予算額	決算額	差違	備考
収入の部				
会費	266,000	256,000	-10,000	
参加費	70,000	56,000	-14,000	シンポジウム・見学会参加費
前期繰越金	152,786	152,786	0	
計	488,786	464,786	-24,000	
支出の部				
印刷費	250,000	77,780	172,220	会報4回発行、シンポジウム資料・見学会資料
通信費	40,000	64,130	-24,130	会報の送付、見学会・シンポジウムの案内、役員会連絡、ホームページ管理料
講師謝金・交通費	30,000	5,000	25,000	見学会講師謝金(遠方10,000円、関東近郊5,000円、幹事0円)
シンポジウム飲食代	20,000	4,320	15,680	
文房具・備品	10,000	8,641	1,359	会報送付用封筒
花輪	0	14,175	-14,175	鈴木元氏(幹事)葬儀花輪
手数料	0	315	-315	
保険料	50,000	2,832	47,168	見学会で傷害保険に加入
計	400,000	177,193	222,807	
次期繰越金	88,786	287,593	198,807	収入-支出

【予算との差異】 予算と実績とが大きく違ったことは下記によるものです。

- ・シンポジウムおよび見学会の講師を幹事が行ったため、謝礼と資料の印刷費が少なかった。
- ・見学会参加時に加入する保険で、補償額が昨年度のものと同じで、費用が安い商品が新しくできたので、その保険に変更した。(レクリエーション保険)

第3号議案 2005年度事業計画

年	月	日	会報	行事	備考
2005	4		会報第9号の発行		
	5	7		◇現地見学会6〔横須賀〕 「観音崎砲台」	
		14		高橋悦子幹事:「第三海堡について」講演	三浦半島の文化を考える会
	6	11	会報第10号の発行	●通常総会 ◎シンポジウム4〔横須賀〕 「第一海堡の保存と活用について」 石見潔氏:「海堡に生まれて」 澤田勇太氏:「第一海堡 展示施設の提案」	2004年度会計報告 2005年度会費徴収
		7		◇現地見学会7〔横須賀〕 「第二海堡・第三海堡」 「追浜ケーソンヤード」	
	8				
	9		会報第11号の発行		
	10			◇現地見学会8〔東京〕 品川台場または第一海堡	
	11				
	12			◎シンポジウム5〔東京〕 「世界遺産登録を目指して」	
2006	1		会報第12号の発行		
	2				
	3				

現地見学会候補地
 〔富津〕第一海堡
 〔真鶴〕石切場→品川礎石之碑→遊覧船
 〔東京〕品川台場
 〔大阪〕由良要塞
 〔千葉〕館山 要塞跡
 〔海外〕ロシア・クロンシュタット要塞見学ツアー

第4号議案 2005年度予算案

項目	予算額	04年度決算額	差違	備考
収入の部				
会費	270,000	256,000	14,000	100人個人、7社
参加費	20,000	56,000	-36,000	シンポジウム・見学会参加費
前期繰越金	287,593	152,786	134,807	
計	577,593	464,786	112,807	
支出の部				
印刷費	80,000	77,780	2,220	会報4回発行、シンポジウム資料・見学会資料
通信費	100,000	64,130	35,870	会報の送付、見学会・シンポジウムの案内、役員会連絡、ホームページ管理料
講師謝金・交通費	70,000	5,000	65,000	見学会講師謝金(遠方:交通費or10,000円、関東近郊5,000円、幹事0円)
シンポジウム飲食代	10,000	4,320	5,680	
文房具・備品	18,000	8,641	9,359	
保険料	10,000	2,832	7,168	
役員会開催費	30,000	0	30,000	
その他	30,000	14,490	15,510	
計	348,000	177,193	170,807	
次期繰越金	229,593	287,593	-58,000	収入-支出

予算と対比している 2004 年度決算額が、議案書では誤っておりまして、修正しています。

第5号議案 2005年度役員選任の件

2004年度役員の内任

- 会長 高橋在久 (東京湾学会理事長・江戸川短期大学名誉教授)
- 副会長 朝倉光夫 (東亜建設工業(株)) [幹事→副会長]
- 幹事 西田好孝 (東京湾海堡建設従事者子孫代表) [副会長→幹事]
- 幹事 仲野正美 (横須賀市立北下浦小学校教頭)
- 幹事 安室真弓 (東京湾学会理事)
- 幹事 小坂一夫 (富津市文化財審議委員)
- 幹事 松本庄次 (富津公民館長)
- 幹事 小沢洋 (富津公民館主査)
- 幹事 西田信吉 ((株) 港建技術サービス)
- 幹事 長崎哲士 (彫刻家)
- 幹事 勝巖 (新横商事(株))
- 幹事 高橋克 (江戸川短期大学助教授)
- 幹事 渡辺京子 (富津湾の会幹事)
- 幹事 (事務局長) 島崎武雄 ((株) 地域開発研究所)
- 幹事 (会計) 高橋悦子 ((株) 地域開発研究所)

第4回シンポジウム報告

第4回海堡シンポジウム（横須賀市立中央図書館共催）が2005年6月11日、横須賀市立中央図書館で開催されました。

当日は一般参加者を含め80名を越える出席があり、立ち見が出るほどの盛況でした。詳細は次号に掲載致します。

〔講師・内容〕

石見 潔氏 海堡に生まれて

澤田勇太氏 第一海堡の活用について

「東京湾海堡の活用」について自由討論

〔司会〕 島崎武雄幹事



講演する石見氏（2005. 6. 11 撮影）



講演中の様子（2005. 6. 11 撮影）



講演する澤田氏（2005. 6. 11 撮影）

東京湾海堡ファンクラブ 第6回見学会報告

2005年5月7日（土）観音崎公園において東京湾海堡ファンクラブ見学会が実施され、13名の参加がありました。

当日は直前まで小雨が降っていましたが、集合時間までには雨も止みすがすがしい天気となりました。

見学コース：駐車場→ 火薬庫（観音崎青少年の村）→ 北門

第一砲台→観音崎灯台→第二砲台（海上交通センター）→ 第三砲台（第一展望台）→大浦堡壘（戦

没船員の碑）→ 腰越堡壘（海の子とりで）→ 三

軒家砲台 →走水園地



弾薬庫跡を見学



第一砲台跡の説明をする仲野幹事



仲野幹事より説明を受ける参加者の皆さん

東京湾海堡ファンクラブ見学会
観音崎砲台群を訪ねて

東京湾海堡ファンクラブ幹事 仲野正美



海の見晴らし台から東京湾を望む



海の子とりでで遊ぶ子供達

見学会終了後、走水園地横で全員が自己紹介と感想を述べました。観音崎のボランティアの方も参加されたので、砲台の話だけではなく、自然に関するお話も聞くことができ、非常に有意義な見学会となりました。



見学会終了後の参加者の皆さん

各砲台の任務

- 走水低砲台の目的は主としてこの砲台と第三海堡間の海面を射撃して、敵艦の航通を途絶する。所要に応じて観音崎砲台、猿島砲台の側防をする。
 - 走水高砲台は第三海堡壘と走水低砲台の海面を射撃して、低砲台を援助する。
 - 北門第一砲台・第四砲台は海門の通過を企てる敵艦に対して予め、なしうる妨害をあたえる。
 - 第二砲台の目的は主として、第三海堡と間の海面を射撃して敵艦の航通を途絶する。但し、この砲台の右三砲座については、その目的は第一、第四砲台と同じ。
 - 第三砲台の目的は千代が崎・浦賀の東方あるいは南方海面を射撃して敵艦の攻撃を妨害し、合わせて観音崎北方の海面を射撃する。
 - 南門砲台に備える12速加砲、9速加砲はこの方面より上陸、奇襲に対して観音崎堡壘団の近接防御に備える。
 - 三軒家砲台の目的は、第三海堡と第二海堡間の海面を射撃し敵艦の航通を途絶する。且つ、走水及び第三海堡の水雷を掩護する。
 - A点（大浦堡壘）及びB点（腰越堡壘）の目的は共に、鴨居村から観音崎・走水方面に侵入する敵を防遏して、もって海岸諸砲台を掩護する。
- （東京湾口防御計画による M29. 4）

横須賀はレンガの町・リサイクルの町

横須賀の町は面白ところである。町を歩くとそこここに歴史的なものによくぶつかる。たとえば、これは市内吉倉にある浄栄寺（じょうえいじ）というお寺の墓地の石垣である。よく見るとレンガ塊を積み上げてできた石垣である。

お寺の住職の話によると、近くの汐入（しおいり）にあった軍需部のレンガ造建物を解体するときに払い下げを受け、職人さんに頼んで戦前に築いたとのことである。

レンガ造の建物は近代日本の象徴として、明治になると全国各地の官庁・銀行・軍関係施設などに多く見られるようになった。特にヴェルニーらによって早くからレンガ作り始ま

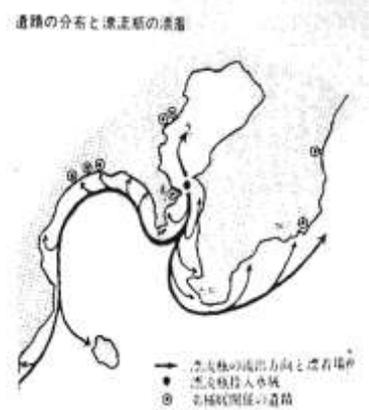
った横須賀では、たくさんのレンガ造りの建物があったと想像される。そうすると建物の立替或いは倒壊（大震災など）で、不要になったレンガがたくさん出てきたと考えられる。

廃材としてのレンガ、これに目をつけたのが横須賀の人々、もともと平地の少ない東京湾側はレンガ塊を割り、石垣を組み宅地などを造った。もともとレンガ塊は適当な大きさに割りやすく、石材の乏しい横須賀では願ってもない石垣素材、多少の見てくれ勘弁してもらおう。

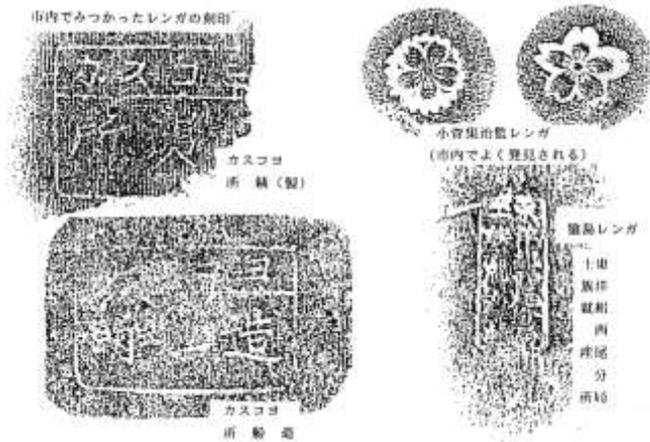
よく探してみると、結構見つけることができる。

浄栄寺墓地の石垣、不入斗（いりやまず）郵便局裏通り、ちこく坂脇、子の神開閉所（汐入）、旧坂本小裏の石垣など小規模なものを含め10数箇所を確認している。皆さんの家の周りにもあるかもしれません。

その時、ついでにレンガにごく稀についている刻印を探してみよう。



観音崎灯台 明治2年1月元日に点灯。わが国最初の様式灯台で、当時横須賀製鉄所の建設にあたっていたヴェルニーによって築かれた。レンガ 64,500 個と石灰、四角い白塗の建物、レンズはフランス製、現在の建物は震災後大正14年に建てられた3代目。



日本武尊（やまとたける）と弟橘媛（おとたちばなひめ）伝説

古東海道 昔、道は東京を通らずに、三浦半島を通り、海路で房総半島に渡り、北上していた。そのような中、東国平定に向かうため上総へ海を渡ろうとした武尊が大シケにあった時、海神の怒りを鎮めるために自ら海中に身を投じた弟橘媛と日本武尊をまつる走水神社。そこには、古代の交通路が浮かび上がってくる。

弟橘媛関係遺跡一覧

	所在地	遺蹟名称	漂着物
(東京湾沿岸)	川崎市子母口	橘神社	
	横浜市神奈川区	袖ヶ浦	袖の一部が漂着
	横須賀市長浦	吾妻神社	櫛が漂着
	横須賀市走水	走水神社	渡海出発地
千葉県	富津市		衣類の一部が漂着
(相模湾沿岸)	中郡大磯二の宮	小余綾の浜	綾錦の帯漂着
	二の宮	吾妻神社	衣冠を着けた遺体漂着
	小田原市	袖ヶ浦海岸	袖の一部漂着
千葉県	大原海岸		櫛が漂着
	長生郡	橘神社	御陵がある

「弟橘媛の入水伝説と潮流」 山下金義に 仲野が補追した

観音崎の自然&あれこれ
観音崎砲台跡

東京湾海堡ファンクラブ会員 鈴木 弘

2005年5月7日(土)「観音崎砲台群を訪ねて」と題する東京湾海堡ファンクラブの見学会が開催された。総勢13名が参加。幹事の仲野正美講師のご案内により、観音崎に残された、日本の近代化遺産とも言える砲台跡を見学した。

私にとって観音崎の砲台跡は見慣れた存在で、時にはフィールドレンジャーとして、小中学生や生涯学習等の団体さんをご案内することもある。ところが、砲台跡に関してはその場所を知っている程度で、それぞれの砲台にどのような砲が据えられ、どのような役割を担っていたのか等々、ほとんど何も解っていないことを今更ながら痛感、今回の見学会参加となった。



参加者の皆さん

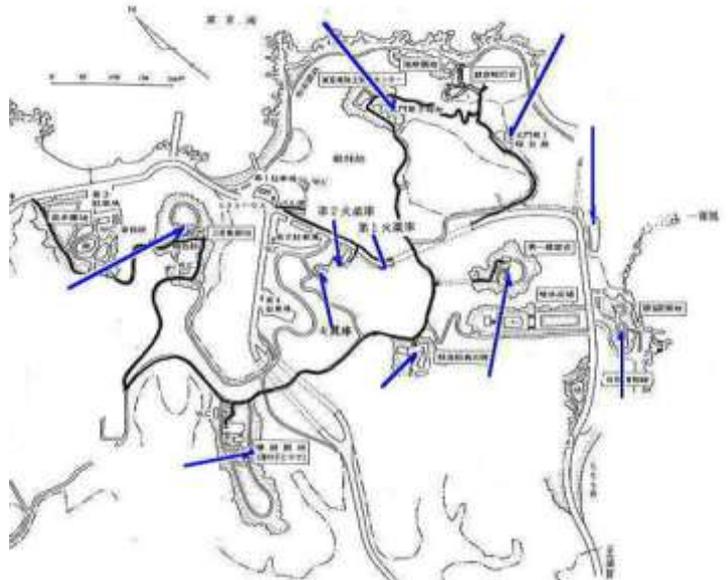
砲台跡見学前、集合場所の観音崎バス停近くにある「青少年の村」に立ち寄った。ここには、現在もキャンプや研修等の宿泊施設として使用されているレンガ造りの建物がある。イギリス積で造られたこの建物は、建設当時、兵舎か診療所として使われていたとこれまで聞いていたが、仲野講師のお話では火薬庫と火具庫であったと言われる。スタート早々にして、私の僅かな知識は覆されることになった。



青少年の村(火薬庫・火具庫)



白ペンキの部分もレンガ造りの旧火薬庫はイギリス積



観音崎砲台跡・案内図

(注)

1. 加は加農砲(カノン)の略、カノン砲は砲身長く、砲弾

の初速が大きいから敵艦側を射撃適す。遠距離もこの砲で、24加-2は24センチ口径のカノン砲が2門設置されていたことをさす。

2. 榴は榴弾砲の略、榴弾砲はカノン砲に比べ砲身が短く、口径の1.2.3から20倍くらいのまでのもの、従って初速がカノン砲に比べ大きくなく、上向け発射し、敵艦の甲板を打ち抜く砲である。

3. 臼は臼砲の略、榴弾砲より更に砲身が短い口径の1.2.3倍以下のもの。比較的近距离に於いて敵の頭上から、弾丸を落下させるもの。

4. 速加は速射加農砲の略、発射速度の大きい砲。即ち一定時間内に多数の発射ができる。

5 フランスは砲台関連構築物のレンガの積み方がフランス積、イギリスはイギリス積の略。

6. 案内図は当日配布された資料にカラー文字部分を追加して転載、また、上記(注)の1~4及び各砲台の任務については配付資料をほぼそのまま転載させていただきました。

7. 観音崎砲台群の内、第4砲台跡は現在海上自衛隊の観音崎警備所として立ち入りが禁止されているために現状は不明。又、南門砲台は全面的に取り壊され、展望園地として整備されたため、砲台跡は跡形もなく消滅している。



北門第1砲台跡



フランス積の連絡通路

①北門第一砲台跡（第一砲台・通称：おんば砲台）

明治13年起工・明治17年竣工・大正4年除籍

北門第一砲台は左右一対2門の砲座からなり、24センチ口径のカノン砲が2門設置され、海門の通過を企てる敵艦に対して、予めなし得る妨害を与えることを任務としていた。両砲台はフランス積で造られたトンネルで通じており、地下には弾薬庫や兵員室などがあった。



北門第1砲台の説明をする仲野幹事

②北門第二砲台跡（第2砲台・通称：だんだん砲台）

明治13年起工・明治17年竣工・大正14年除籍

北門第二砲台は6門の砲座からなり、24センチ口径のカノン砲が6門設置され、左3砲座は第三海堡と間の海面を射撃して敵艦の交通を途絶、右3砲座は第1砲台と同じく、海門の通過を企てる敵艦に対して、予めなし得る妨害を与えることを任務としていた。

現在、左3砲座は取り壊され「東京湾海上センター」の敷地となり、トンネル側に右3砲座だけが残されている。東京湾海上センター側から県道209号に通じるトンネル内には、フランス積みで造られた弾薬庫入口が3ヶ所あるが、後にトンネルの一部が、イギリス積で補強されているのが興味深い。



見学する参加者の皆さん

奪取”や”旅順陥落”に28センチ口径の榴弾砲が活躍，その榴弾砲は観音崎砲台に設置されていたものを取り外して，戦地へ送られたと記されている。

私はこれまで，その榴弾砲が観音崎のどの砲台に据え付けられていたのか知らなかったが，今回の見学会で配付された資料を見ると，28センチ口径の榴弾砲が設置されていたのは第3砲台のみであることが判明，数年来の疑問が氷解した。

尚，第3砲台の付属構築物はフランス積で造られているが，園路から海の見晴らし台へ通じるトンネルは，建設当時は素堀で造られていたものを，後にイギリス積で補強している。



北門第二砲台跡



奥にあるのが第三砲台



フランス積のトンネル内弾薬庫入口



苔むしたレンガ構築物はフランス積

③海の見晴らし台（第三砲台・旧第一展望園地）

明治15年起工・明治17年竣工・大正14年除籍

第3砲台は，4門の砲座からなり，28センチ口径の榴弾砲が4門設置され，千代ヶ崎・浦賀の東方あるいは南方海面を射撃して敵艦の攻撃を妨害し，合わせて観音崎北方の海面を射撃することを任務としていた。現在は3砲座が取り壊され「海の見晴らし台」となり，1砲座だけが残されている。

明治維新から日露戦争で勝利を収めるまでの日本を描いた司馬遼太郎著「坂上の雲」の四巻・五巻では，”二〇三高地



トンネル入口



トンネル補強部分のレンガはイギリス積



イギリス積のレンガ構築物の一部

④戦没船員の碑（大浦堡壘）

明治28年起工・明治29年竣工・大正14年除籍

大浦堡壘には9センチ口径のカノン砲が2門設置され、鴨居村から観音崎・走水方面に侵入する敵を防遏して、もって海岸諸砲台を掩護することを任務としていた。

現在は砲座等全ての設備が取り壊され、「戦没船員の碑」の敷地となっているが、芝生広場の一隅にあるレンガ構築物の一部が、僅かに堡壘の痕跡をとどめている。



大浦砲台跡



大浦砲台跡

⑤うみの子とりで（腰越堡壘）

明治28年起工・明治29年竣工・大正13年除籍

腰越堡壘には大浦堡壘と同じ9センチ口径のカノン砲が2門設置され、鴨居村から観音崎・走水方面に侵入する敵を防遏して、もって海岸諸砲台を掩護することを任務としていた。

現在は堡壘の一部が取り壊され、「うみの子とりで」の敷地となっている。設計者が堡壘の姿を後世に残そうと配慮したのか？レンガ造りの構築物を、実に巧みに公園の一部として利用しているのが印象的である。



海の子とりで



海の子とりでのレンガ構築物



イギリス積のレンガ構築物



奥に見えるのがレンガ構築物

⑥三軒家園地（三軒家砲台）

明治27年起工・明治29年竣工・昭和8～9年除籍

三軒家砲台は6門の砲座からなり、27センチ口径のカノン砲が4門、12センチ口径の速射カノン砲が2門設置され、第三海堡と第二海堡間の海面を射撃し敵艦の航通を途絶、且つ、走水及び第三海堡の水雷を掩護することを任務としていた。

現在も三軒家砲台は原形に近い形で残されていて、観音崎に残された砲台群の中では、もっとも保存状態の良い砲台と言える。イギリス積で造られたレンガ構築物は、レンガの質も良く、第1～第3砲台のように苔むしていないため、100年以上昔に造られたとは信じられないほどの美しさを保っている。

三軒家砲台の海側には、砲台跡をほとんど傷つけることなく、三軒家園地が造園整備され、天気の良い日には第一海堡・第二海堡を間近に、更には横浜や千葉の木更津・君津方面を遠望できる。



レンガ構築物



第一海堡・第二海堡や横浜・千葉方面を望む



三軒家砲台跡

あとがき

観音崎の砲台跡について、恥ずかしながら、私はこれまであまり深く考えたことがなかったように思う。外国の脅威から首都東京を守るため、明治の先人達が築いた砲台という程度のことは承知していたが、いつ頃、どのような大砲が、どのような任務を担って設置されていたのか等々、見学会に参加して「目から鱗が落ちる」心境である。

鎖国という長い眠りから覚めて、列強諸国に対抗するため、

必死になって先進諸国に学び行動した、先人達の遺産の一つが観音崎の砲台跡や東京湾海堡のように思える。

今回6ヶ所の砲台跡を見学して、これまでに幾つかの砲台跡が取り壊され、原形をとどめぬ状態にあることを知り、日本の勃興期を象徴する近代化遺産として、これ以上破壊が進まぬよう、監視・保護する必要性を痛感した。

最後に、このような有意義な見学会を企画していただいた(幹事)の仲野正美講師と東京湾海堡ファンクラブ事務局に厚くお礼申し上げたい。



ニュース

◆● ラジオ出演情報 ◆●

当ファンクラブの仲野正美幹事が横須賀市の FM ブルー湘南に出演され、永島庄兵衛や西田明則の顕彰碑に関する事など横須賀に関連ある話を交えながら海堡の歴史的背景などを紹介されました。

●日時 6月9日(木) 午後3時～3時30分

「東京湾第三海堡物語」

◆● 写真展開催のお知らせ ◆●

大野繁 写真展
横須賀・近代要塞事始
「東京湾を封鎖せよ！」
開催のお知らせ

[全国近代化遺産活用連絡協議会横須賀大会] 併設プログラムとして、東京湾海堡ファンクラブ会員 大野繁氏の写真展が、下記日程で行われますのでお知らせいたします。

記

会期：平成17年7月4日(月)～10日(日)

9時～20時(会期中無休)

会場：横須賀市産業交流プラザ

(ベイスクエアよこすか一番館3階)

横須賀市本町3-27 TEL 046-828-1632

京浜急行汐入駅下車徒歩1分

JR 横須賀駅下車徒歩8分

興味のある方は是非ご参加下さい！

東京湾海堡ファンクラブ会則

第1条（名称）

当会の名称は、「東京湾海堡（とうきょうわんかいほう）ファンクラブ」とする。

第2条（目的）

当会は、東京湾海堡を核にして人の輪をつくり、東京湾海堡の歴史の検証と普及、遺跡の整備と愛護、ランドマークとしての理解を深め、東京湾の歴史と未来をつなぐことを目的とする。

第3条（事業）

- 当会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
- (1) 東京湾海堡に関する研究会、講演会、見学視察会の実施。
 - (2) 会報の発行（年4回）。
 - (3) 東京湾海堡に関する資料・情報の収集。
 - (4) その他、東京湾海堡への理解と愛護を深める活動。

第4条（会員）

当会の目的、事業に賛同する個人または法人（グループを含む）を会員とする。

第5条（入退会と会費）

当会に入会しようとするものは、入会申込書により会長に申込みの申すものとする。会長は、正当な理由がない限り、その入会を認めなければならない。当会を退会しようとするものは、退会届けを会長に提出し、任意に退会することができる。

会員は、下記の年間会費を納入する。

- 年間会費は、個人会員2,000円、法人会員10,000円とする。
会費は、毎年4月に支払うものとし、会費を支払わないときは退会したものとみなす。

既納の会費は、いかなる理由があっても返還しない。

第6条（総会）

- 総会は、当会の議決機関であり、年1回の通常総会および臨時総会とする。
- (1) 総会は、会員をもって構成する。
 - (2) 総会は、会員の過半数を定足数とする。ただし、定足数については委任状をもって代えることができる。
 - (3) 総会の議決は、出席した会員の過半数の賛同をもって行う。可否同数の場合は、議長の決するところによる。
 - (4) 会長は総会を召集し、総会の議長を勤める。
 - (5) 総会は、前年度の事業報告および収支決算の承認、当年度の事業計画および収支予算の決定、役員の選任、会則の変更、解散、合併、その他総会または役員会が必要と認める事項について議決を行う。

第7条（会員の権利）

- 会員は、次の権利を有する。
- (1) 総会に参加すること。
 - (2) 研究会、講演会、見学視察会に参加すること。
 - (3) 会報の無料配布を受けること。
 - (4) 収集した資料・情報を閲覧すること。
 - (5) その他、当会が行う東京湾海堡への理解を深める活動に参加すること。

第8条（資格の喪失）

会員が次の各号に該当するときは、その資格を喪失する。

- (1) 退会したとき。

第9条（役員）

当会は、役員として、会長1名、副会長1名、幹事（事務局長）、幹事（会計）を含め、15名以内の幹事をおく。

役員は会員から総会において選任する。役員の任期は通常総会から次の通常総会までとするが、再任を妨げない。

第10条（役員職務）

会長は、当会を代表し、その業務を総務する。副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。役員は役員会を組織し、当会の業務を行う。

第11条（会計）

当会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第12条（事務局）

当会の事務局事務所は、東京都台東区東上野2-7-6 東上野T.Iビル（株）地域開発研究所内におく。事務局には事務局員若干名をおく。事務局員は会長が選任する。

第13条（付則）

当会則は、2003年6月21日から改定実施する。

役員

会長 高橋在久（東京湾学会理事長・江戸川大学名誉教授）
副会長 朝倉光夫（東亜建設工業（株））

- 幹事 仲野正美（横須賀市立衣笠小学校教頭）
幹事 安室真弓（東京湾学会理事）
幹事 小坂一夫（富津市文化財審議委員）
幹事 松本庄次（富津公民館長）
幹事 小沢洋（富津公民館主査）
幹事 西田好孝（東京湾海堡建設従事者子孫代表）
幹事 西田信吉（（株）港建技術サービス）
幹事 長崎哲士（彫刻家）
幹事 勝 巖（新横商事（株））
幹事 高橋克（千葉県文化財課）
幹事 渡辺京子（富津藩の会幹事）
幹事（事務局長） 島崎武雄（（株）地域開発研究所）

入会案内

東京湾海堡ファンクラブの活動主旨にご賛同いただける個人・法人（グループを含む）の入会を募集しております。

入会希望者は、下記入事務局まで申込み用紙をご請求ください。申込み用紙は、ホームページ（<http://www.babu.jp/~kaihoufc/>）からでも入手できます。

会費は下記口座にご送金ください。

銀行振込口座

- 東京都民銀行 御徒町(カチマチ)支店 普通預金 4011598
「東京湾海堡ファンクラブ会計高橋悦子（トウキョウワンカイハウファンクラブカイケイタカハシエツコ）」
 - 郵便局 00140-9-665909「東京湾海堡ファンクラブ」
- 会費(年間) 個人会員：2,000円 法人会員：10,000円

事務局 〒110-0015 台東区東上野 2-7-6 東上野T.Iビル

（株）地域開発研究所内 東京湾海堡ファンクラブ事務局

事務局長：島崎武雄 会計：高橋悦子

電話 03-3831-2916 FAX 03-3836-4048

HomePage：http://www.babu.jp/~kaihoufc/

E-mail：kaihoufc@babu.jp

E-mail を事務局までご連絡ください。

見学会やシンポジウムの案内など、郵送より早くお知らせすることができます。

皆さまからのお便りをお待ちしています。

「海堡」に投稿ください。葉書、手紙、E-mail、写真、ご意見、近況、作品、随筆など、事務局までお寄せ願います。

第一海堡、第二海堡の活用方法についてのご意見もお待ちしております。

「海堡」 *kaihou* No.10

—東京湾海堡ファンクラブニュース— 第10号

東京湾海堡ファンクラブ 2005年7月1日発行